

野村 駿介さん

ローザンヌ国際バレエコンクール2026出場壮行会

稲城市で生まれ育った野村駿介さんがローザンヌ国際バレエコンクール2026への出場が決定したことから、コンクールでの健闘を祈念し、壮行会を実施しました。野村さんの恩師である「YARITA YU BALLET STUDIO」の鎗田優様をはじめ、多くの市民の皆様にご参加いただきました。

壮行会は、野村さんの出身校である南山小学校の児童が応援メッセージを書いた日の丸の贈呈や、恩師からの激励、野村さんの演技の動画上映などが行われ、華麗な決めポーズも披露してくださいました。最後は、参加者全員で花道を作りハイタッチをして、ローザンヌへ向かう野村さんを送り出しました。

野村さんへの質問

Q バレエを続けることを迷われたことはありますか？また、乗り越えられたエピソードがあったら教えてください。

A あります。小4の頃に練習が嫌になり、1年間くらいレッスン回数とレッスン時間を減らしました。しかしそこから、ちょっと楽しいと思うようになって、中2くらいから自分からバレエをしたいと強く思うようになりました。

Q 本当は食べたいけれど我慢している好きな食べ物がありますか？

A 食事制限はしていません。しかし運動前は炭水化物を多めに、運動後はタンパク質を多めに摂取するように心がけています。

Q オフの日や、息抜きはどのように過ごしていますか？

A ゲームをしたり、ジムに行ったり、猫と遊んだりしています。

Q バレエの魅力は何ですか？

A 視点にもよりますが、踊る側としてはお客様の心を動かし、そのお客様からの拍手や歓声をいただけることが魅力です。

Q 好きな演目や役は何ですか？

A 白鳥の湖の道化です。

Q うまく行かないときはどうやって気持ちを変えているのですか？

A 無理にやり続けずに潔く帰宅することです。

野村さん挨拶(一部抜粋)

バレエを続けていく中で、いつも意識しているのは「楽しむこと」です。頑張りすぎると続かないので、程よいバランスで取り組むことを大切にしてきました。そういった日々の積み重ねが、今回の挑戦につながっていると思います。

この数年で、海外留学を経験したことも僕にとって大きな転機でした。さまざまな国のダンサーと一緒に学ぶ中で、文化や表現の違いに刺激を受け、自分の視野が一気に広がりました。筋力や技術面だけでなく、舞台上でどう感情を伝えるのかという「表現力」も大きく成長できたと感じています。また、慣れない土地で生活を管理し、勉強し、トレーニングを続けるという経験は、バレエ以外の面でも自分を強くしてくれました。

今回、ローザンヌ国際バレエコンクールの日本代表として選んでいただいたことは、僕にとって夢のような出来事です。選ばれたと聞いた瞬間はすごく嬉しかった反面、責任の重さも感じました。

僕は、このまちで育ったこと、この場所から夢を追いかけていることを誇りに思っています。ローザンヌでは、いただいた応援を力に変えて、自分らしく、そして全力で踊ってきます。どうぞこれから応援よろしくお願いします。

